
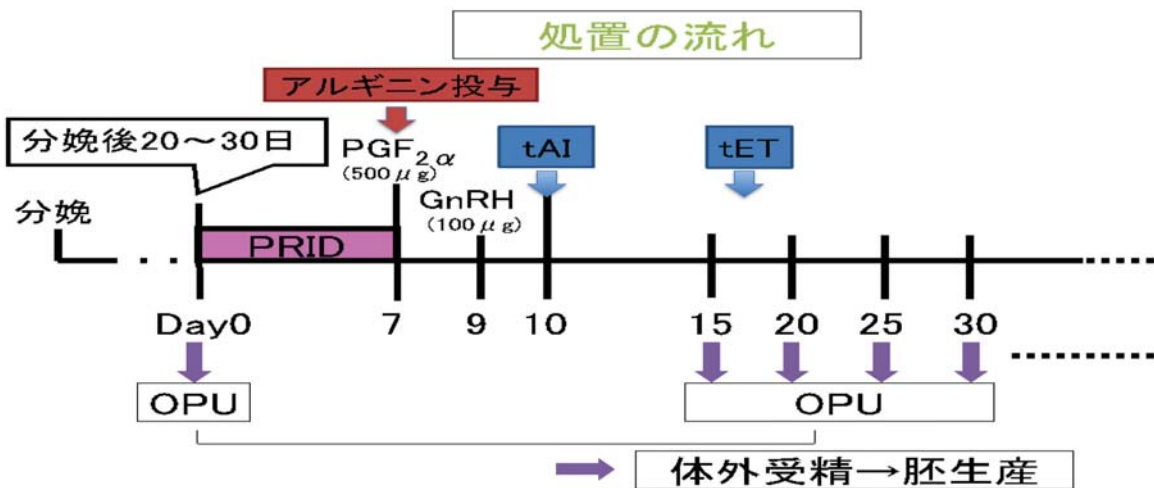


農学部研究シーズ2014

所属・職・氏名	附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター ・助教・平田 統一	
紹介する研究シーズ名	牛の分娩後早期における定時授精による受胎性向上とこれに続く経腔採卵-胚体外生産	
キーワード	畜産・ウシ・繁殖/経腔採卵(OPU)、体外受精・培養(IVP)、分娩後早期の定時授精(tAI)、アルギニン、定時胚移植(tET)、受胎率向上	

シーズの「売り」は！！

分娩後早期の牛に tAI を実施する際、アルギニンを投与することにより受胎率を向上できます。同時に OPU-IVP を連続実施することで、特定血統の牛胚を大量生産することが可能です。



御明神牧場では、一般農家から繁殖障害牛や優良血統牛の預託を受け、体外受精胚を生産しています。

【研究シーズの応用例・活用分野・展望】

- ① 遺伝的、経済的に価値の高い黒毛和種牛から効率的に移植可能胚を大量に生産できる。
- ② 分娩後空胎期間を延長せずに1年1産を達成できる。
- ③ ある牛群に対し、分娩後早期(50日以内)にTAIし、70%前後の高い受胎率を達成できる。
- ④ ホルスタイン種等を受胎牛として活用し、乳牛から黒毛和種産子を得ることで乳肉複合経営を確立できる。
- ⑤ 高泌乳牛の後継牛を効率的に生産できる。

関連特許・関連資料等

なし